

20都市の現地徹底取材で中国の今を炙り出す

週刊ダイヤモンド

DIAMOND WEEKLY

http://dw.diamond.ne.jp/ 2014 5/24 定価 710円

スマホを席卷
英ARM半導体

数字で会社を読む

日産自動車
ルノーの赤字を補填

第102巻20号/毎週土曜日発行/平成26年5月24日発行/大正2年5月10日第3種郵便物認可

新

中国

バイブル

投資

4兆元投資のツメ跡
炭鉱・幽霊都市に潜入
全国「鬼城」マップ

政治

習近平とは何者か
消えた李克強の真相
次期指導部大胆予測



金融

総額541兆円!?
シャドーバンキングの
カラクリを徹底説明

本誌記者が
理財商品購入
その利回りは?

日系企業

277社アンケート
7割が売り上げ回復
中国の課題に商機

産業

ネットの二大巨頭
アリババVSテンセント
過熱する買収合戦

外交

商船三井の次は?
狙われる
日系企業リスト

目利きのお気に入り

個人起業の限界を超える 会社のリソースの使い方

良

質な啓蒙書には、やさしい言葉で深い教訓を与えてくれるという共通項があります。今月は、そんな3冊がそろいました。

アップルの人事総務本部長を務めた後、慶應義塾大学の先生にして自らも会社を経営する著者の『**起業家のように企業で働く**』は、会社内起業の勧めです。独立を夢見ている人は多いと思いますが、著者は会社のリソースを自分の夢のために使うことが、個人起業の

限界を超え、充実した働き方をもたらすと言います。そのために何をすべきなのか。一つ一つのアドバイスは、分かりやすく実践的にかつ高度。毎日1冊は売れるのは理由がありました。

確実にヒットを飛ばす岩瀬大輔さんの『**仕事でいちばん大切な人を好きになる力**』には、人脈、しかも良質な人脈が、いかにビジネスの種になり、人生と仕事の幅を広げてくれるのかを実感させられます。キャリアや人脈のまばゆ

選・評
真田 泉
八重洲ブックセンター八重洲本店
販売課リーダー

さ故に、「私にもできるだろうか」と尻込みしてしましますが、それでもなお、「こうした考え方はすてきな」だというアドバイスが天こ盛りです。

『銀行員だけが知っているお金を増やすしくみ』は、自分のための財務の入門書。収入の1割を貯金しよう、オフショア口座を活用しよう、不動産投資は若いころから考えよう等々、大切だけども知らないお金の増やし方を説きます。実は、著者の一連の著作は、決して欠品にできない棚回転の速いものばかりで、本書も、「さすが」です。(談)



『**起業家のように企業で働く**』
小杉俊哉 著
(クロスメディア・パブリッシング 1380円)



『**仕事でいちばん大切な人を好きになる力**』
岩瀬大輔 著
(講談社 1300円)



『**銀行員だけが知っている お金を増やすしくみ**』
長岐隆弘 著
(集英社 1200円)

知を磨く読書 第51回 作家・元外務省主任分析官 佐藤 優

日本人の対中国脅威意識

日本人の中国観について描いた優れた研究書だ。時代は、1970年代初頭の日中国交正常化から92年の天皇訪中までに限定されているが、現在、日外交の懸案となっている問題が網羅的に含まれている。中国のみならず、モンゴル、台湾にも考察の対象が及んでいる点も本書の特徴だ。

〈モンゴルの対中国恐怖感には、日本が伝統的に中国に対して負っていた中華文明に対する恩恵の裏側に貼りついた対中国脅威意識と通じ合う感情の一体感があることを指摘しておきたい。「満州国」前後の時代に、一部の現地の日本人が「汎モンゴリズム」の夢にうなされ、モンゴル・ナショナリズムや南北モンゴル統一国家といった運動を煽ったことで、今なお一部の日本人にはそのような運動に対する希望的幻想を抱きがちである。〉という指摘が興味深い。

安倍政権は、モンゴルを通じて対北朝鮮外交の突破口を開こうとしているが、これも対中国脅威論につながる動きだ。



『**現代日本人の中国像**
日中国交正常化から
天安門事件・天皇訪
中まで』
馬場公彦 著
(新曜社 4200円)